



令和4年度 事業報告

芦原デイサービスセンター

1. 事業総括

4月に高齢通所介護事業所において利用者、職員合わせて9名の新型コロナウイルス感染症の陽性が判明しましたが、今年度の重点方針の一つである「陽性者発生時の事業継続マニュアル」に沿って対応したことで、年間を通して休所することなく、サービスを必要とする方への支援を続けることができました。また、約2年ぶりに1日外出やおやつ作り、9月と3月には地域公開講座の開催と、段階的かつ着実に活動を再開することができました。

今年度の重点課題である障害者生活介護事業所の利用率アップと収入増については、相談支援事業所への利用案内や利用者家族への声掛けに力を入れたことで、新規利用者の獲得や既にご利用いただいている方の利用回数増など、一定の成果は見られましたが、目標を大きく下回りました。来年度も最重要課題として位置付け、現在特に力を入れている個別支援計画の充実など、事業所の特長を広く知っていただけるよう相談支援事業所や特別支援学校等の関係機関に働きかけ、登録者数や利用率の向上に取り組めます。

2. 事業報告

1) 高齢者通所介護

(ア) 定員32名で年間平均利用率85%（平均27.2名）の堅持を目標に取り組みます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護	23.1 (25.3)	25.4 (21.9)	25.5 (22.3)	25.1 (23.3)	25.9 (24.7)	26.1 (23.9)	27.0 (24.2)	27.0 (25.3)	27.1 (26.6)	26.9 (24.9)	26.6 (23.5)	27.9 (26.2)	26.1 (24.3)
要支援 含む	25.3 (27.9)	27.3 (24.3)	27.5 (25.4)	27.3 (25.7)	27.8 (27.2)	27.8 (26.5)	28.4 (27.1)	28.5 (28.2)	28.8 (29.1)	28.1 (27.4)	28.2 (25.6)	29.1 (28.5)	27.8 (26.9)
利用率 %	79.1 (87.3)	85.5 (76.0)	86.1 (79.4)	85.5 (80.2)	86.9 (85.1)	86.9 (82.8)	88.8 (84.7)	89.1 (88.2)	90.0 (91.0)	87.9 (85.7)	88.2 (80.1)	93.1 (89.1)	87.3 (84.1)
開所 日数	26 (25)	26 (18)	26 (26)	26 (27)	27 (22)	26 (26)	26 (26)	26 (26)	27 (27)	24 (24)	24 (24)	27 (27)	25.9 (24.8)

※（ ）内は前年同月

⇒4月に利用者、職員合わせて9名の新型コロナウイルス感染症の陽性が判明し、収束まで約10日を要しました。その間、利用を自粛された方もおられましたが、利用前、就労前の抗原検査の実施など、「陽性者発生時の事業継続マニュアル」に沿って対応したことで休所することなく、サービスを必要とする方への支援を続けることができました。利用率についても5月以降は安定し、目標とする利用率を達成することができました。

(イ) ICTの活用や少人数での実施など、感染対策を講じながら講座やボランティアの活動、外出など、段階的に活動を再開していきます。

⇒個別に近い形で関わることのできる漢方整体や大正琴などのボランティア活動、散歩、バラ園への外出など、感染拡大状況を見ながら段階的に再開することができました。

(ウ) 質の高い認知症ケアを提供するために、認知症介護実践者研修やリーダー研修、タクティールケアなど、研修計画に基づき受講を進めます。また、オンライン研修への参加を積極的に行うことで、職員それぞれのスキルに応じた学びの機会を提供します。

⇒オンライン研修を中心に、認知症ケアについて学びの機会を持ちました。また、研修の成果を職場全体で共有できるよう、研修報告会も開催し、職場全体で認知症ケアへの理解を深めました。

(エ) 利用者、家族を対象としたサービス満足度調査を実施し、サービスの向上を図ります。また、調査の集計結果やいただいたご意見は、利用者に書面でフィードバックします。

⇒7月から8月にかけてサービス満足度調査を実施しました。送迎時間が一定しないことや、一方で、食事の味付けが良いなど、約4割の方から回答をいただきました。また、分単位での送迎時間の希望など、個別性の高いご意見が多かったため、個別に回答させていただきました。

(オ) 利用者の人権擁護、虐待防止のための委員会を毎月開催します。また、法人研修担当部会とも連携し、権利擁護や虐待防止についての所内研修を年2回、実施します。

⇒8月に虐待防止委員会の企画で人権に配慮した環境についての所内研修会を開催しました。また、全職員を対象に虐待防止に向けたアンケートを実施し、アンケート結果のフィードバックを含めた所内研修会を1月に開催しました。

(カ) 看護主任を中心に看護会議を定期的に開催します。看護会議や日常業務を通して高齢者通所介護と障害者生活介護の看護マニュアルなどの統一化を図ります。

⇒隔月で開催している看護会議で、利用者情報等の効率的な共有方法、高齢者通所介護と障害者生活介護の看護マニュアル統一について、取り組みました。

(キ) 法人危機管理・防災対策部会とも連携し、感染症や災害が発生した場合であっても、必要なサービスを継続的に提供できるよう、研修やシミュレーションを実施します。また、実施にあたっては地域住民の参加も呼びかけます。

⇒5月と11月に通報・避難訓練、9月には全職員対象に緊急連絡網伝達訓練を実施しました。また、3月には地域住民とともに防災についての研修会を開催しました。

2) 障害者生活介護

(ア) 各曜日の登録者数については定員の25名を確保し、年間平均利用率84%（平均21.0名）を目標に取り組みます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
生活介護	19.7 (22.3)	20.8 (21.2)	19.2 (21.2)	19.5 (20.4)	20.1 (20.7)	19.0 (20.0)	18.6 (19.2)	17.8 (19.5)	17.5 (20.4)	18.3 (19.8)	18.8 (20.0)	19.6 (19.7)	19.1 (20.3)
地域支援 含む	19.7 (22.3)	20.8 (21.2)	19.2 (21.2)	19.5 (20.4)	20.1 (20.7)	19.0 (20.0)	18.6 (19.2)	17.8 (19.5)	17.5 (20.4)	18.3 (19.8)	18.8 (20.0)	19.6 (19.7)	19.1 (20.3)
利用率 %	78.9 (89.4)	83.1 (84.8)	76.8 (84.6)	77.8 (81.6)	80.4 (82.8)	75.8 (80.0)	74.3 (76.6)	71.5 (77.8)	70.2 (81.5)	73.3 (79.2)	75.2 (80.2)	78.7 (78.8)	76.3 (81.4)
開所 日数	26 (26)	26 (26)	26 (26)	26 (27)	27 (26)	26 (26)	26 (26)	26 (26)	27 (27)	24 (24)	24 (24)	27 (27)	25.9 (25.9)

※（ ）内は前年同月

⇒相談支援事業所への利用案内や利用者家族へのお声掛けをした成果が現われ、新規利用者の受け入れや既にご利用いただいている方の利用回数増などがありましたが、一方で、毎日のご利用いただいていた方が4月と6月に相次いで施設入所された影響が大きく、目標とする利用率を大きく下回りました。引き続き利用率改善に向けて、事業所の特長を広く知っていただけるよう相談支援事業所や特別支援学校等の関係機関に働きかけを行っていきます。

- (イ) 短時間外出の機会を段階的に増やします。また、利用者が楽しみにされている 1 日外出の再開についても検討します。
- ⇒気候の良い時期に施設近辺の散歩やお花見などに出かけました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で約 2 年中止していた 1 日外出についても、5 月に海遊館へ行くなど、再開することができました。
- (ウ) アクティビティを充実させるため、ICT の活用や少人数での実施など感染対策を講じながら、講座やボランティアの活動を段階的に再開していきます。
- ⇒1 日外出以外にも、少人数での近隣の散歩や、管理栄養士や厨房と相談しながらおやつ作りの再開ができました。
- (エ) 通所つばさと事業所間での協働を目標に、Web 会議をメインとした定例会議を開催します。また、交換研修など、人的交流を通して連携強化を図るとともに、職員個々のスキルアップを目指します。
- ⇒Web 会議等の定期的な連絡会議については、来年度より実施します。今年度は利用者や職員に陽性が分かった際など、事業所内の感染状況を速やかに連絡し合うことができました。また、交換研修については、12 月に介護職員 1 名を派遣しました。
- (オ) 利用者の重度化に対する研修の充実、看護師の加配や西宮すなご医療福祉センター医師による巡回相談など、医療ケアの充実を図ります。
- ⇒感染拡大の影響で巡回相談を開始することはできませんでしたが、実施に先立って、ご利用者およびご家族にその内容を個別に説明させていただきました。
- (カ) 利用者、家族を対象としたサービス満足度調査を実施し、サービスの向上を図ります。また、調査の集計結果やいただいたご意見は、利用者に書面でフィードバックします。
- ⇒7 月から 8 月にかけてサービス満足度調査を実施しました。利用日の変更についてのご意見や、試食する機会がないので食事については回答できないなど、半数以上の方から回答をいただきました。ご意見を基に 1 月より家族に向けて昼食会を開始しました。
- (キ) 利用者の人権擁護、虐待防止のための委員会を毎月開催します。また、法人研修担当部会とも連携し、権利擁護や虐待防止についての所内研修を年 2 回、実施します。
- ⇒8 月に虐待防止委員会の企画で人権に配慮した環境についての所内研修会を開催しました。また、全職員を対象に虐待防止に向けたアンケートを実施し、アンケート結果のフィードバックを含めた所内研修会を 1 月に開催しました。
- (ク) 看護主任を中心に看護会議を定期的に開催します。看護会議や日常業務を通して高齢者通所介護と障害者生活介護の看護マニュアルなどの統一化を図ります。
- ⇒隔月で開催している看護会議で、利用者情報等の効率的な共有方法、高齢者通所介護と障害者生活介護の看護マニュアル統一について、取り組みました。
- (ケ) 法人防災部会とも連携し、感染症や災害が発生した場合であっても、必要なサービスを継続的に提供できるように、研修やシミュレーションを実施します。また、実施にあたっては地域住民の参加も呼びかけます。
- ⇒5 月と 11 月に通報・避難訓練、9 月には全職員対象に緊急連絡網伝達訓練を実施しました。また、3 月には地域住民とともに防災についての研修会を開催しました。

3) 深津居宅介護支援事業所

(ア) 常勤４名体制でケアマネジャー１人当たりの担当件数３５件、担当率８５％、４名での１カ月あたりの要介護者担当件数１１０件以上を目標に取り組みます。また、積極的に新規ケースを受け入れることで介護報酬増を目指します。

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
介護 プラン数	114 (109)	112 (107)	110 (113)	112 (114)	106 (117)	105 (119)	109 (117)	105 (115)	109 (118)	115 (115)	112 (111)	109 (107)	1318 (1362)
予防 プラン数	47 (52)	47 (54)	42 (52)	41 (52)	32 (51)	28 (52)	26 (50)	18 (49)	17 (49)	15 (49)	14 (48)	14 (48)	341 (606)
合計 プラン数	137.5 (135)	135.5 (134)	131 (139)	132.5 (140)	122 (142.5)	119 (145)	122 (142)	114 (139.5)	117.5 (142.5)	122.5 (139.5)	119 (135)	116 (131)	1488.5 (1665)
担当率(%) (予防プラン 1/2)	88.1 (86.5)	86.8 (85.8)	83.9 (89.1)	84.6 (89.7)	78.2 (91.3)	76.2 (92.9)	78.0 (91.0)	73.0 (89.1)	75.3 (91.0)	78.5 (89.1)	76.2 (86.5)	74.3 (83.9)	79.5 (88.4)
ケアマネ 人数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	－

※（ ）内は前年同月 合計プラン数は予防プラン１件を０.５件として計算

⇒例年以上に新規の相談が多くあり、その全てをお受けしましたが、一方で施設入所や逝去されたことにより担当終了ケースも例年より多かったため、担当件数、担当率ともに目標を大きく下回りました。来年度も積極的に新規ケースを受け入れ、業績の回復に努めます。

(イ)「防災と福祉の連携による個別避難計画作成の促進事業」に先立って、「福祉専門職対象防災対応力向上研修」修了者（必須研修）を中心に、優先度の高い方から順に個別避難計画の作成を始めます。

⇒個別避難計画の作成にあたり、対象者の選定と基本情報の作成は終わりました。避難経路図の作成等はできておらず、次年度引き続き進めていきます。

(ウ) 加算要件の一つである「他の法人が運営する居宅介護支援事業所と共同の事例検討会・研修会の開催」については、１人ケアマネジャーや経験の浅いケアマネジャーを対象としたものを開催するなど、他事業所とのネットワークを構築するとともに、サポート機能も担える事業所を目指します。

⇒９月に開催した詐欺被害予防啓発のための地域公開講座において、他の法人が運営する居宅介護支援で事業所を含む在宅介護サービス事業所と学習機会を持ちました。また、クラウド型ビジネスチャットツールを活用しながら、他事業所とのネットワーク構築にも取り組みました。

(エ) 法人内の各事業、医療や障がい福祉サービスとの連携を積極的に行うことで途切れなく、利用者のニーズに即したきめ細かな支援ができるよう努めます。

⇒地域包括支援センターや通所介護事業所、法人内の居宅介護支援事業所をはじめとして各事業と連携することで、利用者のニーズに即したきめ細やかな支援ができるよう努めました。また、介護保険の利用だけでなく、多様な社会資源を活用した総合的な支援を行いました。

(オ) 介護ソフトのクラウド化に伴い、ケアプラン等への電子サイン、サービス担当者会議の Web 開催など、ＩＣＴを実用的に使うことができるよう、必要な機器の導入や勉強会を開催します。

⇒クラウド型ビジネスチャットツールの使用を開始し、他事業所との連絡調整に活用しています。

4) 深津地域包括支援センター（西宮市高齢者あんしん窓口深津）

（ア）西宮市の委託を受け、三職種 6 名で運営し、1 人あたりの担当プラン件数 25 件を目指します。

⇒ 8 月まで 5 人体制ではあったものの、地域活動や相談支援を行いながら、1 人あたりの担当プラン件数は平均 24 名で推移することができました。9 月より三職種 6 名体制となり、直轄プラン件数は目標に届かなかったものの、管轄エリア内の居宅介護支援事業所を対象にしたヒアリングの実施など、地域包括としての活動を強化することができました。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
委託 プラン数	340 (341)	331 (337)	329 (345)	337 (337)	318 (334)	316 (340)	319 (342)	307 (345)	300 (348)	309 (349)	309 (345)	322 (339)	3837 (4102)
直轄 プラン数	117 (118)	117 (116)	119 (116)	119 (117)	122 (116)	122 (117)	128 (119)	131 (120)	131 (121)	130 (117)	130 (110)	127 (113)	1493 (1400)
三職種	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	—

※（ ）内は前年同月

（イ）保健師を中心に地域診断を実施することで地域の課題や特性が見える化（データ化、地図化）し、介入できる手段や環境の整備を地域の関係機関と協働して行います。

⇒ 民生・児童委員や地域住民を対象に、自身が暮らしている中で感じている地域の課題についてのアンケートを実施するなど、地域課題や特性の見える化を進めました。

（ウ）短時間の参加、少人数での開催や事前予約制を取るなど、感染症対策を講じた上で地域活動を地域包括主導で、段階的に再開します。

- ・行政、民生委員、自治会、地区社協など各種関係機関と連携を深め、介護者教室、西宮いきいき体操認知症カフェ、見守り、相談活動などに取り組みます。
- ・認知症サポーター養成講座を開催します。また、認知症予防学習会を地域で開催します。
- ・瓦木圏域にある居宅介護支援事業所のケアマネジャー支援として、虐待や成年後見制度の事例検討会などを内容とした学習会を開催します。

⇒ 西宮いきいき体操や認知症カフェの会場を訪問するなど、相談活動に取り組みました。認知症サポーター養成講座の開催は、関係機関などに声掛けを行いましたが、依頼自体がありませんでした。

また、9 月と 3 月に地域住民向けに学習会を開催しました。

（エ）社会福祉士養成校の実習を受け入れるなど、福祉人材の育成に取り組みます。

⇒ 8 月に約 1 カ月間、社会福祉士養成校の実習生 1 名の受け入れを行いました。

（オ）介護ソフトのクラウド化に伴い、ケアプラン等への電子サイン、サービス担当者会議の Web 開催など、ICT を実用的に使うことができるよう、必要な機器の導入や勉強会を開催します。

⇒ クラウド型ビジネスチャットツールの使用を開始し、他事業所との連絡調整に活用しています。

令和４年度活動実績

※（ ）内は、前年度の実績

総合相談件数（介護保険・医療福祉サービス・申請代行） 1782 件（1241）	みみより広場 9 回（0）
予防給付の総給付管理件数 5341 件（5502）（内訳） 包括自己作成件数 1492 件（1400） 委託件数 3849 件（4102）	
西宮市いきいき体操教室支援件数 13 件（4）	圏域居宅介護支援事業所ケアマネジャー研修開催 18 回（12）
地域ケア会議・コア会議の開催 104 件（77）	民生・児童委員協議会、地域昼食会での介護保険等の普及・啓発活動 155 件（60）

月別相談延件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
電 話	64 (54)	75 (49)	86 (45)	51 (62)	81 (48)	75 (50)	93 (51)	73 (62)	80 (57)	103 (50)	91 (48)	79 (69)	951 (654)
来 所	6 (5)	7 (5)	13 (4)	8 (7)	10 (3)	3 (4)	6 (6)	6 (4)	10 (12)	8 (5)	6 (8)	8 (5)	91 (68)
訪 問	21 (8)	14 (4)	10 (10)	23 (9)	10 (12)	6 (17)	12 (12)	12 (12)	7 (15)	9 (12)	15 (12)	11 (14)	150 (137)
合 計	91 (67)	96 (58)	109 (59)	82 (78)	101 (63)	84 (71)	111 (69)	91 (78)	97 (84)	120 (67)	112 (68)	98 (88)	1192 (850)

総合相談・包括的支援業務

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
介護認定 申請代行	14(5)	9(1)	11(3)	14(10)	11(10)	10(6)	13(5)	17(8)	4(9)	10(10)	6(6)	10(12)	129(85)
暫定ケア プラン	11(10)	11(11)	9(10)	9(8)	11(8)	9(6)	10(3)	7(7)	8(5)	7(8)	3(14)	8(17)	103(107)
非該当調査	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(1)	0(1)	3(2)
さわやか コール 見守り訪問	2(2)	5(3)	2(4)	7(2)	7(4)	7(3)	8(2)	4(2)	3(8)	3(1)	3(4)	3(2)	54(37)
認知症 関連相談	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(3)	3(5)	0(1)	1(4)	1(4)	1(2)	0(1)	1(2)	7(23)
福祉サー ビス申請	3(0)	4(0)	3(2)	1(0)	1(1)	3(0)	2(1)	2(0)	1(0)	3(0)	2(0)	1(0))	26(4)
合計	30(18)	29(15)	26(19)	31(20)	30(26)	33(20)	33(11)	31(22)	17(26)	25(21)	14(26)	23(34)	322 (258)



5) 安心して利用できるサービスを提供

(ア) 役職者を中心に報告、連絡、相談の体制をより一層強化することで、サービスの質の向上に繋がります。

⇒ 芦原デイサービスセンター内にある4事業所の役職者が全員集まる会議を月1回、また管理職と事務とのミーティングを毎週開催して、各事業の情報共有し、「報・連・相」の体制を堅持しました。

(イ) 感染拡大状況を見ながら、季節行事や利用者が希望する講座（絵画、生け花、アロマセラピー、パソコン基礎講座、指編み物、絵手紙など）を、少人数での開催から段階的に再開していきます。また、1日外出の再開についても検討します。

⇒ 個別に近い形で関わることでできる漢方整体や大正琴などのボランティア活動、散歩、バラ園への外出など、感染拡大状況を見ながら段階的に再開することができました。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で約2年中止していた1日外出についても、5月に海遊館へ行くなど、再開することができました。

(ウ) サービス満足度調査等でいただいた意見や要望を取り入れ、サービスに反映させます。

⇒ 7月から8月にかけてサービス満足度調査を実施し、約半数の方から回答をいただきました。利用日の変更についてのご意見や、試食する機会がないので食事については回答できないなど、半数以上の方から回答をいただきました。ご意見を基に1月より家族に向けて昼食会を開始しました。

6) 安定した経営基盤の確立

(ア) 高齢者通所介護事業、障害者生活介護事業の各種加算を得るために必要な資格を取得できるように職員のスキルアップを図ります。

⇒ 加算取得に必要な有資格者を適切に配置し高齢者通所介護事業では、中重度ケア加算、処遇改善加算、特定処遇改善加算。障害者生活介護事業では、重度障害者支援加算Ⅰ、常勤看護体制加算Ⅲ、欠席時対応加算、福祉専門職配置加算Ⅰ、処遇改善加算、特定処遇改善加算を継続して取ることができました。

(イ) 毎月の経営状況について推移表を基に分析を行い、問題点と課題を明確にし、安定経営に努めます。

⇒ 毎月の役職者会議で実績表を基に経営状況を分析した上で、各部署の会議で課題解決に向けた具体的な対策を講じました。

(ウ) 水光熱費、電話代、事務経費などの経費節減に努めます。

⇒ ペーパータオルなどの消耗品はコスト面と使い勝手などを検討しながら、随時変更しました。また、朝・夕のミーティングやスタッフ会議等を通じて、経費削減の意識を職場全体で持てるよう取り組みました。

7) 職員研修及び人材育成

(ア) オンデマンドを活用した内部研修やオンライン研修への参加を積極的に行うことで、年間研修計画に基づき、より多くの職員が研修に参加できるよう計画します。

⇒ 法人高齢部会主催の認知症ケアについてのオンライン研修、感染対策についてのオンデマンドを活用した内部研修、また徐々に再開しつつある外部研修と併せて積極的に研修へ参加することができました。

(イ) 虐待防止委員会と研修委員会が協働し、所内で虐待防止に向けた研修を年2回、ハラスメント対策についての研修を年1回、開催します。

⇒ 8月に虐待防止委員会の企画で人権に配慮した環境についての所内研修会を開催しました。また、全職員を対象に虐待防止に向けたアンケートを実施し、アンケート結果のフィードバックを含めた所内研修会を1月に開催しました。

(ウ) サービス管理責任者、相談支援専門員、認知症初任者研修、認定特定行為業務従事者（喀痰吸引等の実施）研修を計画的に受講し、有資格者を養成します。

⇒資格取得要件を満たしている職員がいなかったため、派遣できませんでした。

(エ) 職員のスキルアップのために資格取得（介護職員初任者研修、介護福祉士、介護支援専門員等）を奨励します。

⇒資格取得に関する研修などの情報を随時案内し、今年度は1名が介護福祉士試験を受験しました。

(オ) 法人合同実践研究発表会の開催に先立って、総合相談支援センターと合同で在宅部門の実践研修発表会を開催します。

⇒10月に Web 会議形式で在宅部門の実践研修発表会を開催しました。

(カ) 社会福祉士、介護福祉士、介護等体験、トライやるウィークなどの実習を、感染対策を講じながら積極的に受け入れます。

⇒トライやるウィークは4校、社会福祉士養成校の実習は2校、介護支援専門実務者研修、介護福祉士養成校の実習など、年間を通して積極的に実習受け入れを行うことができました。

8) 高齢分野での連携

法人における高齢分野の施設として、「甲寿園」「にしのみや苑」「総合相談支援センター」「芦原デイサービスセンター」4施設での連携・協働を各会議及び協議会を中心に進めていきます。

(ア) 高齢分野全体

- ・ 高齢分野の会議（高齢部会）を定期的に開催します。
- ・ 法人共通等級基準におけるキャリアアップシステムに基づいた研修プログラムの運用とポートフォリオの作成を開始します。
- ・ 5カ年計画の進捗状況を確認し、今後の中長期計画を検討します。

⇒高齢4施設（甲寿園、にしのみや苑、芦原デイサービスセンター、総合相談支援センター）と法人本部事務局とによる高齢部会において、ポートフォリオの作成や法人新5カ年計画の進捗状況の確認と課題の共有を行いました。また、11月には4施設間での内部監査を実施し、その結果を共有しました。

(イ) 短期入所・通所介護事業所連絡協議会

連絡会議を定期的に開催して管理者及び相談員が連携を取ります。事業者間の協働を強めることで、サービスの向上と事業の活性化・効率化に取り組みます。

⇒7月以降、隔月で開催し、特に通所介護事業所の利用率向上に向けての取り組みについて討議しました。

(ウ) 居宅介護支援事業所連絡会議

連絡協議会などを通して、引き続き事業所間のつながりを深めるとともに、ケアマネジメントの質の向上に繋がります。また、地域包括間においても同様に連携が図れるよう、甲山地域包括支援センターと深津地域包括支援センターとの連絡協議会を定期的に開催します。

⇒9月に開催した居宅介護支援事業所連絡会議では、ICTを活用しての業務の効率化、甲寿園通所介護事業所とにしのみや苑デイサービスの相談員による事業所紹介と施設見学を行いました。また、6月には甲山地域包括支援センターと深津地域包括支援センターとの連絡協議会を開催し、地域活動への参加状況等を共有しました。

9) 施設の環境整備

(ア) (中庭ウッドデッキの改修工事や館内換気扇の交換・清掃など) 本部管理部と調整しながら施設建物や設備の維持管理に努め、計画的な修理、修繕ができるようにします。

⇒工事内容や業者の選定など本部管理部と調整しながら進め、ウッドデッキの改修工事や館内換気扇の交換・清掃など、計画的な修理・修繕を行うことができました。

(イ) ボイラーや水道など、経年劣化により修繕を要するものが増えると予測されることから、今年度も緊急修繕費を計上します。

⇒7月にはボイラーの異常が発生したため、点検修理を行いました。

(ウ) 送迎車両を更新します。(下半期に1台)

⇒計画通り、更新手続きを完了することができました。

(エ) 障害者生活介護事業所の特殊浴槽の入れ替えに向けて検討委員会を立ち上げ、機種の選定等を行います。

⇒本部管理部に相談しながら、検討委員会の中で機種の選定作業を始めました。

(オ) 栄養課と調整しながら、厨房機器を随時更新します。

⇒食器洗浄機と冷凍冷蔵庫を5月に修理しました。

(カ) 介護ソフトのクラウド化に伴い、ICTを実用的に使うことができるよう、必要な機器の導入を行います。

⇒4月には地域支援室の複合機をWi-Fi対応のものに更新しました。また、ケアマネジャー等、相談支援に関わる職員の携帯電話をスマートフォンに変更し、クラウド型ビジネスチャットツールの使用を開始しました。

10) 災害・防火訓練

(ア) 防火・避難訓練を年2回実施します。また、法人危機管理・防災対策部会と連携しながら、福祉避難所としての受け入れ訓練や地震に備えた図上訓練も地域住民にも参加を呼びかけ、実施します。

⇒5月に通報・避難訓練、9月には全職員対象に緊急連絡網伝達訓練を実施しました。下半期は11月に通報・避難訓練、3月に地域住民とともに防災についての研修会を開催しました。

(イ) 防災備品の整備及び非常食などの備蓄物品の充実を図ります。

⇒ローリングストック方式を念頭に、非常食や水などの備蓄品を備えています。また消費期限が近くになった非常食については、廃棄処分とならないよう活用しました。

(ウ) AEDを用いた心肺蘇生法の救急講習を年1回実施します。

⇒感染拡大状況を鑑みて集合での実技を伴う研修は難しいと判断し、7月にオンデマンド研修を実施しました。

(エ) 深津居宅介護支援事業所がケアマネジメントを担当している方について、優先度の高い方から順に個別避難計画の作成を始めます。

⇒個別避難計画の作成にあたり、対象者の選定と基本情報の作成は終わりました。避難経路図の作成等はまだできておらず、次年度引き続き進めていきます。

11) 地域への社会貢献の取り組み

(ア) 少人数での開催や事前予約制にするなど、感染対策を講じた上で、地域活動に取り組みます。

- ・地域包括支援センターを中心に、居宅介護支援事業所の職員や地域住民を対象にした介護者教室や地域公開講座を実施します。
 - ・「芦原祭り」や社会福祉協議会の歳末助成事業「ふれあい交流会」を地域住民にも参加してもらえるよう企画します。
 - ・西宮市社会福祉協議会芦原地区ボランティアセンター「ふるさと」と協働して、地域福祉講座の開催や地域の見守り活動などの支援を行います。
- ⇒西宮市社会福祉協議会芦原地区ボランティアセンター「ふるさと」にも参加していただき、9月に地域公開講座を開催しました。

(イ) 地域貢献事業として、法人の地域貢献部会や地区社協などと連携しながら、フードバンクを定期的に開催（年2回）するとともに、新たに配食支援に取り組みます。

⇒法人の地域貢献部会や地区社協などと連携して6月と10月にフードバンク（フードパントリー）を開催しました。また、配食支援については管理栄養士と給食委託業者との協議を重ね、配食支援を必要とされる方がいた際には、速やかに支援を開始できる体制が整いました。

(ウ) 地域で虐待防止の啓発活動を行います。また、高齢者、障がい者の虐待を発見した際には、適切な保護と関係機関への通報を行います。

⇒深津地域包括支援センターを中心に、権利擁護センターや西宮市生活支援課のケースワーカーとも連携して虐待対応に取り組みました。





令和4年度 決算報告

令和4年度貸借対照表

(単位：円)

資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
流動資産	92,547,054	流動負債	17,316,374
現金預金	54,377,735	事業未払金	4,233,624
現金	49,766	1年以内返済予定拠点区分間長期借入金	1,000,000
預金	54,327,969	未払費用	1,670,750
事業未収金	37,913,017	預り金	0
未収金	0	賞与引当金	10,412,000
未収補助金	0	固定負債	5,000,000
立替金	256,302	拠点区分間長期借入金	5,000,000
固定資産	59,074,532	負債の部合計	22,316,374
基本財産	0	純資産の部	
その他の固定資産	59,074,532	基本金	0
建物	63,209	国庫補助金等特別積立金	2,432,050
車輛運搬具	2,022,096	その他の積立金	42,407,000
器具及び備品	13,288,627	人件費積立金	5,597,000
人件費積立資産	5,597,000	修繕積立金	17,900,000
修繕積立資産	17,900,000	備品等購入積立金	18,910,000
備品等購入積立資産	18,910,000	次期繰越活動増減差額	84,466,162
		(うち当期活動増減差額)	△1,721,574
		純資産の部合計	129,305,212
資産の部合計	151,621,586	負債及び純資産の部合計	151,621,586

寄付金・寄贈品

令和4年4月1日～令和5年3月31日

敬称は略させていただきます。

寄贈品（日用品・その他）

西宮市教職員組合 ふるさと (株)ハトヤ

荒垣建設(株) (株)神戸島水 安田きよみ

令和 4 年度資金収支計算書

(単位：円)

勘 定 科 目			金額
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	159,510,336
		障害福祉サービス等事業収入	103,814,124
		経常経費寄附金収入	0
		受取利息配当金収入	1,374
		その他の収入	137,000
		事業活動収入計 (1)	263,462,834
	支出	人件費支出	203,947,980
		事業費支出	32,320,433
		事務費支出	20,185,920
		その他の支出	0
事業活動支出計 (2)		256,454,333	
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		7,008,501	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0
		固定資産売却収入	0
		施設整備等収入計 (4)	0
	支出	固定資産取得支出	2,470,939
		施設整備等支出計 (5)	2,470,939
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)		△ 2,470,939
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	1,300,000
		拠点区分間長期借入金収入	0
		拠点区分間繰入金収入	0
		その他の活動収入計 (7)	1,300,000
	支出	積立資産支出	0
		拠点区分間長期借入金返済支出	1,000,000
		拠点区分間繰入金支出	3,500,000
		その他の活動支出計 (8)	4,500,000
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		△ 3,200,000
予備費支出 (10)		0	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		1,337,562	
前期末支払資金残高 (12)		85,105,118	
当期末支払資金残高 (11)+(12)		86,442,680	

令和 4 年度事業活動計算書

(単位：円)

勘 定 科 目			金 額
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	収 益	介護保険事業収益	159,510,336
		障害福祉サービ服务等事業収益	103,814,124
		経常経費寄附金収益	0
		サービス活動収益計 (1)	263,324,460
	費 用	人件費	203,889,980
		事業費	32,320,433
		事務費	20,185,920
		減価償却費	6,490,206
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 1,002,131
		サービス活動費用計 (2)	261,884,408
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)		1,440,052	
サ ー ビ ス 活 動 外 増 減 の 部	収 益	受取利息配当金収益	1,374
		その他のサービス活動外収益	137,000
		サービス活動外収益計 (4)	138,374
	費 用	その他のサービス活動外費用	0
		サービス活動外費用計 (5)	0
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)		138,374
経常増減差額 (7)=(3)+(6)			1,578,426
特 別 増 減 の 部	収 益	施設整備等補助金収益	0
		固定資産売却益	0
		拠点区分間繰入金収益	0
		特別収益計 (8)	0
	費 用	固定資産売却損・処分損	0
		国庫補助金等特別積立金積立額	0
		拠点区分間繰入金費用	3,500,000
		特別費用計 (9)	3,500,000
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)		△ 3,500,000
	当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)		
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額 (12)		84,887,736
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)		82,966,162
	基本金取崩額 (14)		0
	その他の積立金取崩額 (15)		1,300,000
	その他の積立金積立額 (16)		0
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)		84,266,162



令和5年度 拠点収支予算書

令和5年度資金収支予算書

(単位：円)

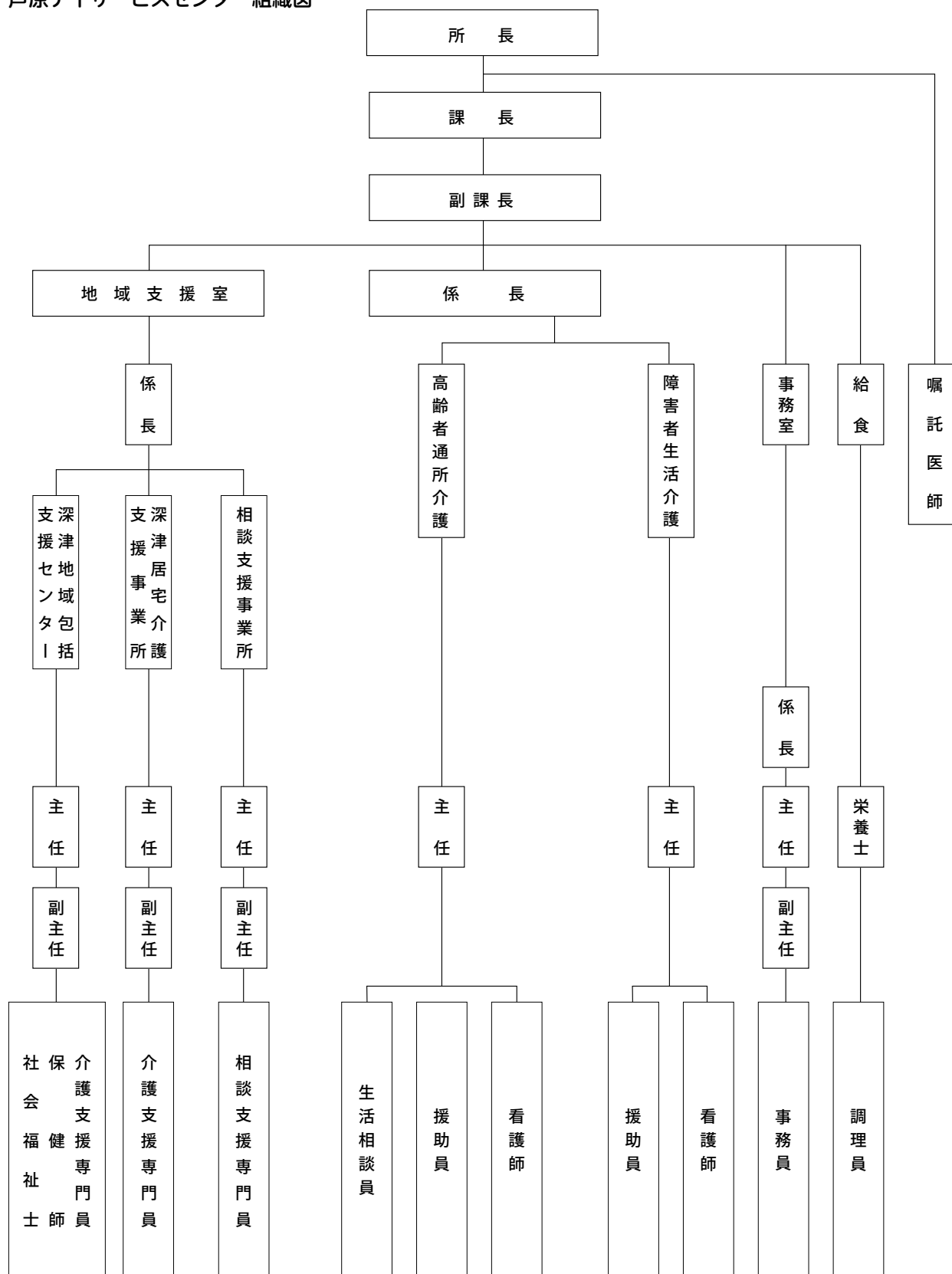
勘 定 科 目	本 年 度 予 算 額
介護保険事業収入	163,251,000
障害福祉サービス等事業収入	105,321,000
受取利息配当金収入	4,000
その他の収入	154,000
事業活動収入計 (1)	268,730,000
人件費支出	206,332,000
事業費支出	35,689,000
事務費支出	21,209,000
その他の支出	0
事業活動支出計 (2)	263,230,000
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	5,500,000
施設整備等補助金収入	0
施設整備等収入計 (4)	0
固定資産取得支出	5,000,000
施設整備等支出計 (5)	5,000,000
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 5,000,000
積立資産取崩収入	5,000,000
拠点区分間繰入金収入	0
その他の活動収入計 (7)	5,000,000
積立資産支出	1,000,000
拠点区分間長期借入金返済支出	1,000,000
拠点区分間繰入金支出	3,500,000
その他の活動支出計 (8)	5,500,000
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 500,000
予備費支出 (10)	0
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0



組織図

社会福祉法人 甲山福祉センター
芦原デイサービスセンター組織図

平成31年3月1日





職員の状況

令和5年（2023年）3月1日現在

	職 名	正規職員	嘱託職員	パート職員
事務所	所 長	1		
	事 務 員	1		2
	小 計	正規職員：2 名 パート職員 2 名 計 4 名		
高齢者通所介護	生活相談員	1		
	援助員（生活相談員）	1		
	援 助 員		6	4
	看護師（機能訓練指導員）	1	2	2
	用務員			1
	小 計	正規職員：3 名 嘱託職員：8 名 パート職員：7 名 計 18 名		
居宅介護支援	主任介護支援専門員	2		
	介護支援専門員	1	1	
	小 計	正規職員：3 名 嘱託職員：1 名 計 4 名		
地域包括	主任介護支援専門員	2		
	社会福祉士	2		
	保健師	2		
	小 計	正規職員：6 名 計 6 名		
障害者生活介護	サービス管理責任者	1		
	援 助 員	2	6	2
	看 護 師		3	3
	用 務 員			1
	小 計	正規職員：3 名 嘱託職員：9 名 パート職員：6 名 計 18 名		
合 計／ 正規職員：17 名 嘱託職員：18 名 パート職員：15 名 計 50 名				
嘱託医師：1 名 （派遣）：管理栄養士 1 名 （委託） 調理師 1 名・調理補助 2 名				



サービス提供内容の流れと職員の業務内容

障害者生活介護事業所

時間	プログラム	内 容
8:45	朝の申し送り	
8:50	送 迎 (随時デイに)	ご自宅までお迎えに参ります
10:00	健康チェック	検温、血圧測定など健康チェックを行います
10:30	入浴、午前の活動 (朝の会)	お体の状態に合わせた入浴方法で入浴していただけます
12:00	昼 食	栄養士の指導の下、お一人おひとりの健康状態に合わせた栄養バランスの良い食事をご用意いたします
13:00	余暇活動	余暇活動や休息
13:30	レクリエーション	集団でのゲームや体操、歌、外出、おやつ作り、ボランティアをお迎えしてコンサートなど
14:30	おやつ	ケーキなどの軽食と飲み物をご用意します
14:50	終わりの会	帰宅準備、終わりの会
15:00	送 迎	ご自宅までお送りします
17:00	スタッフミーティング	

高齢者通所介護

時間	プログラム	内 容
8:45	朝の申し送り	
8:50	送 迎 (随時デイに)	ご自宅まで迎えにまいります
10:00	健康チェック 朝の会	検温、血圧測定など健康チェックを行います
10:30	入浴、午前の活動（ミニレクリエーション、余暇活動）	お体の状態に合わせた入浴方法で入浴していただけます 創作活動や軽い体操などを行います
11:45	口腔ケア体操	摂食・嚥下機能低下を予防します
12:00	昼食	栄養士の指導の下、お一人おひとりの健康状態に合わせた栄養バランスの良い食事をご用意いたします
13:00	余暇活動	コーヒータイトムや余暇活動
14:00	レクリエーション	集団でのゲームや体操、歌、外出、おやつ作り、ボランティアをお迎えしてコンサートなど
15:30	おやつ	ケーキなどの軽食と飲み物をご用意します
16:00	終わりの会	帰宅準備、終わりの会
16:20	送 迎	ご自宅までお送りします ※ 17 時までご利用の方はミニレクリエーション後、送迎

※あくまでも目安の時間帯です。利用者様には利用時間内は個別に経過していただき、必要に応じて職員が対応しています。



各拠点の事業報告

【高齢通所介護】

令和4年度は、毎日の利用者数も一定以上の人数に来ていただくことができました。ただ、年度末から長年ご利用されてきた方々の体調不良や状況の変化があり、入院や入所などが続きいまだに影響が残っています。また新型コロナウイルスの影響もある中で、ボランティアなどは全面的に再開できない状況でした。レクリエーションはボランティアの方々の助けが借りることのできない状況です。職員それぞれがご利用の皆さんに楽しい時間を過ごしていただけるように、いろいろと工夫しながら毎日取り組みました。小規模でのドライブや外出はリクエストもあり再開いたしました。その中で漢方整体のような個別でのボランティアは再開をお願いしました。毎日のレクリエーションも含め、皆さんにも何とか楽しんでいただけたようです。令和5年度は徐々に活動を再開していきたいと考えています。

職員と一緒に考えているのは、デイサービスをご利用になられる方々への『丁寧な』対応です。長く人生を歩んで来られ、芦原デイサービスを利用される皆さんに対して、私たちができることは生活の中での、ほんのわずかなお手伝いです。その中で、できるだけみなさんの気持ちを大切にしていこうと思っています。デイサービスに来られている間、笑顔で過ごしていただけるように配慮し、職員も一緒に芦原デイを楽しんでいきたいと考えています。

副課長 鈴木 邦宏

【障害者生活介護】

各曜日の登録者数については、年度開始時は平均24.17名の登録者数でしたが、施設入所や介護保険に切り替えの方が多く、年度末では23.5名まで登録者数は減少しました。また、新型コロナウイルス感染者発生での利用控えや、ショートステイ再開での欠席者増加の影響もあり、年間平均利用率は76.27%（19.07名）まで下がり目標の84.0%を達成することが出来ませんでした。

短時間外出は気候の良い時期に芦原周辺で散歩や花見を行いました。また、新型コロナウイルスの影響で中止していた1日外出は5月に実施することが出来ました。日中活動の講座やボランティアの再開については、感染対策を実施しながら個々で取り組むことが出来る漢方整体を再開しました。

西宮すなご医療福祉センターの「通所つばさ」との協働については、会議の実施は出来ていませんが、人的交流として交換研修に1名行かせていただきました。同じく医師による巡回相談については、会議の実施と各利用者へのアンケート実施まで行ったものの、実現には至っていません。

サービス満足度調査については、書面で調査の実施と家族へのフィードバックも行いました。

人権擁護や虐待防止については、毎月委員会の実施、所内研修の実施、またフロア内でも虐待についての勉強会を実施しました。

看護会議については、奇数月の隔月で実施しました。高齢者通所介護とのマニュアルの統一化には至っていません。

防災についての研修やシミュレーションは、芦原デイとして若竹会館で地域公開講座を実施し、地域住民の方や法人防災部会の方も参加していただきました。

今年度は目標を下回る結果となりました。来年度は年間平均利用率の目標達成を実現する為に、計画相談に空き情報を細目に伝え新規利用の受け入れを増やし、西宮支援学校の教員との連携強化による学生の卒業後の進路希望が増えるよう取り組んでいきます。また、日中活動についても1日外出や講座を再開できるよう取り組んでいきます。

副主任 梶田 賢

【深津居宅介護支援事業所】

引き続き、令和4年度も介護支援専門員4名体制（主任介護支援員専門員3名）で、特定事業所加算Ⅱを算定しています。新型コロナウイルス感染症が拡大し続ける状況で訪問も制限される中、困難事例ケースを積極的に受け入れました。しかし、担当件数については、施設入所や入院、サービスに繋がらない件数も多く、目標を達成する事ができませんでした。

来年度は、今年度の課題を抽出しながら、目標の担当件数を維持できるよう取り組んでいきます。

ICT等を有効活用しながら、積極的に研修や会議に参加できるよう体制を維持し、他事業所とのつながりを大切にし、情報交換ができればと思います。

また、令和6年度にはBCP（業務継続計画）が義務化になり、困難な事例や周りの方の協力が必要な場面も多くある為、今後も併設している深津地域包括支援センター（西宮市高齢者あんしん窓口深津）や芦原デイサービスはもちろん、各関係機関との連携を図りながら、利用者や地域住民の方々の暮らしを支えられる様に取り組んでいきたいと思っています。

主任・管理者 宇谷 博文

【深津地域包括支援センター】

令和4年度は主任ケアマネジャー1名、社会福祉士2名、保健師2名の計5名体制で4月から運営を開始し、9月には主任ケアマネジャー1名を増員して計6名体制となりました。

11月には社会福祉士1名が甲山地域包括支援センターに異動したことに伴い、深津居宅介護支援事業所から深津地域包括支援センターへの配置転換がありました。併せて管理者が芦原デイサービスセンター所長が兼務となりました。

コロナ禍から行動制限が緩和され、地域活動が再開されてきました。私たちも基本的な感染対策を行いながら、積極的に地域に出向き、対象者の支援を行ってきました。

相談件数も1,000件を超えて増え続けています。介護保険の相談だけでなく、住居や経済に係る相談も増え、行政や法律の専門職とも連携をとりながら支援を行っています。

現在、担当するエリアの高齢者人口は8,000人を超えています。今後も安心して生活していただけるよう、支援を行っていききたいと思います。

主任介護支援専門員 松下 裕之

